

## 口蹄疫疫学調査チーム第3回検討会の概要

1 今回の口蹄疫は、感染畜から排泄されたウイルスが人・車両等様々なものを介して拡大したと考えられる。感染拡大の要因としては、①異常畜の一部に抗体検査で陽性となるもの（感染から一定期間を経ているもの）が認められるなど異常畜の確認に遅れがあったこと、②埋却地の確保が難航し、殺処分・埋却が遅延したことが考えられる。特に、豚が感染した結果、ウイルス量が大幅に増幅し、更に感染が拡大したと推察される。これらを踏まえ豚群への侵入から発症までの期間や、農場で実施されていた侵入防止対策についてさらに踏み込んだ調査が必要である。

2 えびの市における発生は、川南町の関連農場から出発した家畜運搬車が関与した可能性が高く、また、9例目と22例目の発生農場は共同でたい肥化施設を利用していたことが確認されていることから、これらによりウイルスが伝播した可能性が否定できない。なお、えびの市での感染拡大を早期に抑えられた要因は、早期摘発、迅速な殺処分及び埋却が実施されたことにあり、これらのことが発生拡大の防止に重要である。

3 発生当初の都農町から川南町への感染拡大については、発生農場の間で従業員の移動が確認されている例があり、これらの人を介してウイルスが伝播した可能性があることから、さらに調査を進める必要がある。

また、川南町を中心とする地域では共通の飼料運搬会社を利用している発生農場が確認されており、感染拡大に飼料運搬車両が関与した可能性があることから、これらの車両に対する消毒が適切に行われていたか調査する必要がある。

4 ワクチン接種地域外への感染拡大については、直接感染経路に結びつく情報は得られていないが、家畜運搬車両が共通している例が確認されている。今後、実際の消毒実施状況や農場立入者の農場内での動き等について関係者へのヒアリングを含め、更なる調査が必要である。

5 今後の感染防止については、

- ① 飼養衛生管理を徹底し、毎日欠かさず家畜の健康観察を行うこと
- ② 関係者以外（部外者）の農場への立入を禁止すること。関係者が農場へ立ち入る際も農場ごとの専用の長靴及び作業着を着用し、消毒を徹底すること
- ③ 飼料運搬車両等については車体の外側だけでなく運転席内や荷台についても十分に消毒し、一般車両についても引き続き消毒を実施すること
- ④ ワクチン接種農場や防疫措置完了後の農場においても、ウイルスの拡散防止のための消毒を徹底すること
- ⑤ えびの市での発生例における防疫措置を参考に、早期摘発・早期殺処分・埋却を実施すること

が重要とされた。

なお、ワクチン接種家畜は口蹄疫の症状を示していなくてもウイルスを保持している可能性があるため、ワクチン接種農場における消毒等の防疫措置については、引き続き発生農場に準じた措置を厳格に実施することが必要である。